

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第55号(2011.09.30)
事務局川西地区自主防災会

県との合同訓練を終えて

直島町総務課

課長補佐 村上 浩 司

① 訓練のポイント・意義について

今年で5回目となる、香川県と各市町との合同訓練は、離島であり、県内で唯一常備消防を持たない直島町との共同開催となりました。

本訓練は、県との合同で実施する訓練としては非常に珍しい内容となっており、その1つが離島で常備消防を持たない自治体との合同開催は全国初の試みかと思っています。

そして、今年、3月11日に発生した東日本大震災など災害続きの年での開催となったこと。住民や参加者は特別な思いの中での開催となりました。

さて、本訓練目的とポイントについて、ご説明いたします。

まず、目的は大きく分けて2つです。

1. 自主防災組織、幼小中学生等が参加しての避難や応急対策の訓練を通じて、防災意識の高揚を図る。
2. 救出救護訓練においては、当町の立地条件を踏まえることとし、また、町内外からの参加機関を含めた訓練を実施することを通じて、関係者のより密接な連携を図る。

次に訓練のポイントですが。

本訓練は、3つの構成に分かれております。

☆訓練1《地震発生直後を想定した訓練》

・情報伝達訓練：緊急地震速報の伝達や広報車等による避難情報の伝達

・避難誘導訓練：幼小中や自主防災組織等に避難誘導訓練



・災害初動期対応訓練：幼小中や自主防災組織等による避難所設置、土のう作成、ロープ投げ、バケツリレー、担架搬送

☆訓練2《地震発生3～4時間後を想定した訓練》

- ・救出救助訓練：町消防団による救出活動、町立診療所による負傷者救護訓練
- ・指揮所設置訓練：町消防団による指揮所設置
- ・ヘリによる応援部隊の到着：DMAT、陸上自衛隊



☆訓練3《地震発生後24時間後を想定した訓練》

- ・救出救護訓練：応援消防、警察、陸上自衛隊、DMAT、日赤救護班その他ボランティア等が参画しての負傷者の救出救護訓練
- ・各種インフラ復旧訓練：輸送路、交通事故車両、水道の復旧訓練
- ・消火訓練：応援消防、町消防団による消火
- ・物資搬送訓練：町外からの支援物資の搬送訓練
- ・各種インフラ復旧訓練：救命センター等へ搬送する必要がある重傷患者のヘリによる搬送訓練及びその他重傷者の救急艇による搬送訓練

本訓練では、町消防団と職員によるCSRの展示訓練。地元のホテルシェフによる炊出し訓練(町内の婦人の団体による自衛隊との炊出し訓練も実施)、そして、県を越えての消防応援など。



② この訓練を振り返って

県との合同訓練は、担当者としては是非開催したい訓練であり、それぞれの団体にも災害時の離島支援の難しさを体験していただきたいと考えていました。

そして、地元自主防災会や子ども達にも何か、感じるものがあればと・・・

今年まで、町としても毎年総合防災訓練を実施してきましたが、防災、減災、共助への認識をより一層の確認出来たのではと思っています。

③ その他感想など

最後になりましたが、本訓練のために前日より野営をしていただきご指導いただきました川西地区自主防災会の岩崎会長を初め、香川県危機管理課、そして関係団体の皆様方には、本当にお世話になりありがとうございました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

国分寺地区自主ぼう紹介

国分寺北部地区自主防災会
会長 岡内 尊重(たかしげ)

1、地域防災にかける思い — 地球規模の災害に対して、我らはどうすれば—

平成18年に平成の大合併により、国分寺町から国分寺地区となりました。そして、自主防災会に加入する旨消防署より、私の単位自治会に要請がありました。常会の席で私の意見を申しあげました「命に関することですから、皆さん加入しませんか。」そして、当時の自治会長が書類作成に苦心しました。その自治会長交替で、私に指名がきました。

19年度、高松市自主防災会の役員会に北部校区の代表で初参加し、そこで、考えました。

こんな重大なことをこのままでは・・・

20年度南北で「国分寺地区」としての会を作
ることを国分寺地区南部校区の代表（実質は北部同
様で選出ではなく3自治会のお互いに気を使うタ
イプの2名で）、とで、国分寺地区の会を作ろう、
ということになりました。その9月に準備会を2



回もち、関係機関7と加入6自治会とで、国分寺地区自主防災会結成会議と称して、会
則・役員を決めて、めでたく結成となりました。これで、地球規模の災害に個人から地
域連帯で減災に取り組む核ができた、ことになるなと、2人で語り合いました。しか
し。これからがさらに苦難の道が予想され「私の前には壁ばかり、後には道ができるが、
いばらの道を切り開くしか。と自問。

2、人口・地形・加入の現状— ワースト1という地区とは



参加会員が少ないなりに研修会

国分寺地区の人口	約25,000
戸数 南・北校区毎	約4,500
自治会数 南北	毎 約200
加入自治会数	毎 約20
<ul style="list-style-type: none"> ・高松空港・瀬戸大橋・高松の3角の生活線の中心地で通勤便利地区 ・1戸建て住宅が多い地区 ・12峰に囲まれた国分寺盆地地帯 ・池が264カ所で県下最多地帯 ・高齢者人口が比較的低い地区 ・小中学3校とも今も大規模校 	

3、実動人員も少ない、しかし、先進地に学び、実力UPへの取り組み集団づくり

なんと言っても役員、実行委員などとして実動できる会員確保に日ごろ努力中。

なんと言っても自主防災会に加入していて、①研修会や会合にくる熱心な自治会長さんに誘いかけて委員になっていただきました。現4名の元自治会長さんがそれに該当します。②防災士会からのメンバーの誘いこみが1名です。③知人・友人などで声の高く、何事にも積極的な人物にターゲットして成功した1名。④現職の経験や消防OBなどの取り組みも大切。また、⑤根気よく年度替わりなどに毎年勧誘する期待の星の方。⑥

24年度は加入自治会を区域割りにでもして、委員を割り振りでもしないと実動できる会員確保が厳しいと判断しています。

これらの委員で連続3夜の集中研修会開催（役員会・理事会に当たる会合）

月の初めの月～水曜日の夜間にこの委員7名で、意見百出の議論と物事の方向性を決めていきます。合言葉は「先進地に学ぼう」「命一番の防災訓練」が命題です。先進地の丸亀市川西地区のコミセンへの訪問や講師招へいにより、考え方や防災訓練の習得に努めています。そして、今年の防災訓練には、命最優先のクラッシュバッグ訓練などを実行しました。この集中研修会は毎回全員出席という熱気のこもった会となっています。

至急なる東日本大震災地の現地報告会の開催

こんな大災難に「我らは何ができる」緊急会議を開催、予想通り別に提案も出ない状況。以来我らに出来ることとは何か、朝夕思案した。マスコミでは消防関係者・自主防災会の炊き出し支援・大学人の現地調査が話題になっていた。そこでヒントになったのが「現地での生の声を聞こう会」の開催を思い浮かべた。しかし、4月早々では人事異動のころ、予算はどう、と言った時期でもあった。結局4月17日（日）に挙行することができた。金は後から付いてくると信じての開催でもあった。



防災マップづくり研修会



実力UPへの研修会開催

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 20年ごろ | 自主防災会会長の仕事や事務 |
| 21年ごろ | 防災資機材保管などの悩み解決
災害時での自治会アンケート |
| 22年ごろ | 避難場所・避難所の共通理解
防災マップづくり |
| 23年 | 避難所運営・炊き出し実習 |

平成25年度までの中期計画

加入自治会数	20→50（行政指導で100%）
役員・理事数	7→20名台（会則修正）
防災訓練の主催	自主防災会+連合自治会
来賓や協力団体増	行政・関係団体+学校+幼保
防災教育開始年度	23協議開始・24実行開始
事務局に机・いす	自主防→コミセン内設置
会長・事務局長制	23役員での分担制実行
校区別運営開始	地区と校区別活動の2本立て

今年の防災訓練



4、地域の紹介

自主防災という視点で国分寺地区みると、どんな地区なのか、という条件を分析する必要がある。外部でいくら処方箋を出しても的はずれになっていないだろうか。案外気づいていない面が多いのでこの機会にまとめることとする。

加入自治会がワースト1の国分寺地区とはどんなところ

- 子ども会からの脱退が県下で一番に始まったところで、現在解体状態。
その原因は子ども会でお世話することが大変だから脱会するという説もあるところ。
- 交通事故件数での香川県民がワースト1にみられる自己中心性などとも共通性は
- 自治会はゴミ出しできれば生活できるので、自治会を脱退するという声もちらほら。
- 役場がしてくれた、という行政依存の意見が今に多い状況も無関係では。

こうした加入を阻害する要因を知ることで、その加入促進への手だてが今までとは変わらないと加入増にはつながらない気がし始めた最今である。

そこでその手だてとは

- ※ 自治会の総会もなく、会費は振り込み、回覧版も急に間に合わない状況 —
これに対して、自主防加入対策は十把一絡げでは効果なしにも等しい。今、細かい戦略を練っているところで、ワースト1に対する、加入戦略で11月より挑戦する。
- ※ 経済的思考から、生命尊重の思考へのパターンの誘導が必要ではないか。

地区の特異性とは何か

どの地区・校区も地震・津波・大水などと感覚的にはよく似ている。そこで、国分寺の地区民も、自分とは無関係とも思える受け取り方が多いのが現状である。そこに、独特の地域性があることに気づき、今後、「それは大変」という思いに気づいてほしい。しかし、それは誤解のスタートになる危険性も含んでいる。じつは、国分寺盆地という特異な地域性で溜池の多い地区、そして山崩れも、16年台風で体験済みである。地区民はこの心配は常にしていることでもある。国分寺地区の意識改革はこの面から切り込むことにより、意識変容が期待できるかもしれない。今までになり発想である。

事務局だより

平成23年9月

今月は、三豊市上高野自主防災会の奨めにより「ボランティア活動保険」を紹介します。

補償金額と保険料について

	Aプラン	Bプラン
・ 死亡保険金	1,400万円	2,000万円
・ 後遺障害保険金	1,400万円 (限度額)	2,000万円 (限度額)
・ 入院保険金 日額	7,000円	11,000円
・ 手術保険金	詳細は最寄りの社会福祉協議会へ	
・ 通院保険金 日額	4,100円	6,370円

年間保険料	基本タイプ	A 280円	B 420円
	天災タイプ	天災A 490円	天災B 720円

契約並びにお問い合わせは、最寄りの「社会福祉協議会」におたずねください。年度途中からの契約も可能です。

編集後記

今月は、9月1日に実施された県との合同防災訓練にご尽力されました直島町の村上さんと国分寺町で「宇宙」と「自主ぼう」で活躍されている岡内さんより、原稿を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。